



喜多塾きただの

関西大学梅田キャンパス

大阪工業大学梅田キャンパス

先月二十八日、鶴野町に関西大学梅田キャンパスが竣工しました。元々、天神橋六丁目にあった関西大学の天六キャンパスが梅田に移ってきたもので、都心部における社会人向けの学習と交流の場として今後の活用が期待されており、またTUTAYA書店が低層階に入る事で、周辺の活性化も期待されています。

また茶屋町においては、今月二十七日に常翔学園の大阪工業大学梅田キャンパスが竣工予定で、こちらは来年四月開校の予定ですが、既に学生さんらによる地域との交流活動は活発に行われており、今後ロボットとデザイン工学の場として大いに期待されています。梅田は明治時代までは各種学校の集まる地で、学問の神さまである当宮にも多くの学生さんのお参りがありました。都市化に伴い郊外へ多く移転した歴史があります。現代になって再び学生の溢れる街となり、天神さまも微笑んでおられるのかもしれない。

境内散乱被害について

先月、茶屋町の御旅社で境内が荒らされる被害が複数回ありました。手水鉢に洗剤を投入したり、ゴミを散乱させたり、植えてある花を引っっこ抜かれたりとひどいものでした。防犯カメラの映像で犯人はわかりましたが、もしご参拝の折に、このような状況を見かけられましたら、一度神職までお声がけ頂ければ幸いです。宜しくお願い致します。

北野青物市場のはなし

昨今、東京の市場について色々報道がなされていますが、実は昭和のはじめ頃まで梅田キタの、堂山町にも市場がありました。名称を北野青物市場といい、公設の市場では無く、屋根も無かったので「屋根無し野市」とも呼ばれ、近隣村民がそれぞれの持ち寄った野菜を中心に、魚や様々な物品を売り買います。フリーマーケットのようなものであったようです。

いつ頃開設されたのかという事ははっきりとは分かりませんが、明治十九年に施行された宿屋営業取締規則には、大阪市中における宿屋の営業を当宮門前を含め、六ヶ所に限ると記されており、明治中頃には北野青物市場があったものと推測されます。伝承では近隣農村部のお百姓さんらが、牛馬に曳かせて野菜を持ち込んでいたという話も残っており、市場としての祖型は江戸時代にまで遡るのかもしれない。

そんな北野青物市場は私設の市場であったのにも関わらず、大変繁昌したようで、特に七月十五日の当宮の例祭の日は、旧暦ではお盆の中日なので、周辺市場が全てお盆休みで閉まっている中、当宮の祭礼の為に北野青物市場だけは開いていたので、大阪市中から買い物客が殺到したといわれています。

大正初年頃にはトタン屋根も設けて、本格的に市場の体を成していたようですが、昭和二年の北丹後地震で、市場の一部が倒壊し、更に昭和六年に大阪中央市場の開設によって、主流がそちらへ移った為、徐々に寂れ、更に戦時中の野菜の配給統制によって市場自体が機能しなくなったところへ空襲があり、それ以降、完全に姿を消しました。今となっては幻の梅田キタの市場でした。

神社携帯サイトのQRコード

ドコモ、ソフトバンク、au、モバイルPC 対応



編著 網敷天神社 禰宜(神主)

白江 秀知

